

主体性を育む「きっかけ」とこどもの「居場所」を西こども園に創ります

こどもの主体性を尊重した教育・保育を提供するために、挑戦したくなる・動き出したくなる・はっと気づくなどたくさんの「きっかけ」があり、その時々の子どもの気持ちに寄り添う「居場所」がある園舎を提案します。

きっかけを誘発する「回遊性」

活動範囲が広がり、動きも早くなる3～5歳児の2Fエリアは内部と外部をぐるぐる繋げ、行き止りのない開放感を与え、活動を誘発するきっかけをこどもに提供します。

そこから何が見えるか

こどもは今見えるものから興味と好奇心を持ちます。保育室や2Fの回廊からの園庭の眺め、廊下の先にあるものトップライトから見える空、見下ろす読書室、登園した時に見える調理の様子、樹木の変化や日々変わる自然の移ろい他のこどもの様子など、たくさんのきっかけを提案します。

保育者にとってもきっかけになる施設

教育・保育はこどもと保育者と保護者を含めた地域住民とのハーモニーです。保育者が働きやすい環境は、保育の質を高めます。保育エリアと分けて管理エリアを集約しメリハリのある働く環境にします。また、保育者の保育のバリエーションを増やし、保育者にとってもきっかけのある園にします。

地域参加と安心感を両立するゾーニング

道路側に地域交流のきっかけになるランチルームを配置し、職員エリアの更に奥に保育エリアを配置することで、防犯性を高め安心感を保ちながら地域開放も可能になります。



こどもの多様な居場所「秘密基地」

床や天井の高さ・広さ・明るさが異なり、包み込むように囲まれたこどもの居場所＝「秘密基地」
一人でも複数でも、気分に合わせて自分のペースで過ごせて安心できる小空間、こどもの居場所をいくつも創ります。
保育者がこどもと接する場のバリエーションも増やします。

運営者・利用者・事業者・地域のワークショップ

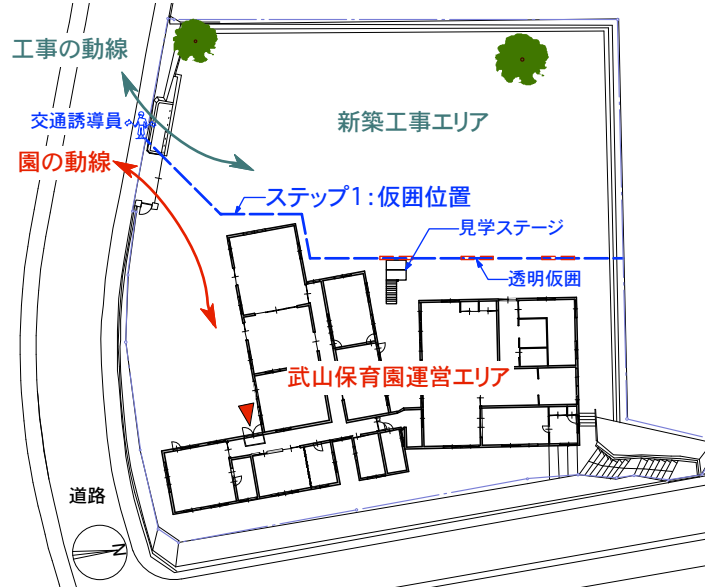
現場の真の要求を読み解き、保育方針を着実にカタチにしてそれを将来に繋げるために、さらに地域のチカラを取込むためにも運営者、利用者、事業者、更に活発な活動をしている武町内会などの地域の方々との4者によるワークショップを数回行うことを提案します。

地元だから出来る将来にわたるアフターフォロー

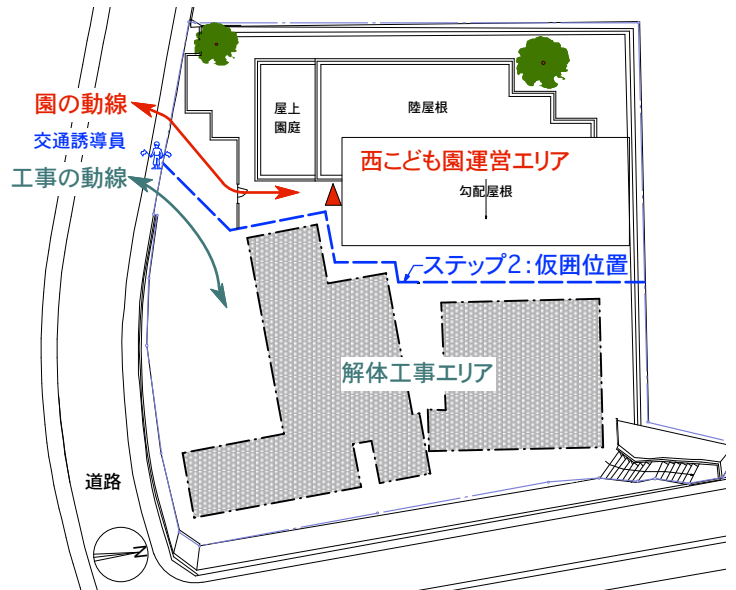
地元の将来に責任をもって関わりたい。このエリアで育ち、生活し、仕事をしている地元の設計+老舗ゼネコンのチームで自分ごととして取り組みます。

工事進捗に合わせたローリング計画

武山保育園を運営しながらの施工となることから、園の運営を少しでも円滑に出来るように、工事に使う範囲を工事進捗に合わせて変化させます。



ローリングステップ1：新築工事中



ローリングステップ2：解体工事中

安全な作業と静かな工事

- ・園の運営と工事の出入動線をはっきりと区分します。
- ・園児送迎時には出入り口付近に交通誘導員が常駐します。
- ・工事車両の多いコンクリート打設時などの期間は交通誘導員を増員して安全を図ります。
- ・騒音の少ない工法を採用し、園児のお昼寝時間帯などは、騒音に配慮して工事を行います。

見て楽しい工事現場

既存園舎と工事現場は粉塵や安全のために万能鋼板で区画し、一部を透明にして園児が工事の様子を覗ける仕掛けにします。更に、園との相談により、少し高い場所から工事の様子が見られる見学ステージの設置を提案します。

主体性を育む「きっかけ」とこどもの「居場所」を西こども園に創ります

多様な保育を可能にする3～5歳保育室：

勾配天井で伸びやかな広がりを感じさせる空間、可動間仕切りを開けると広い一つの空間になり、保育のバリエーションを増やします。

秘密基地のある階段：

吹抜けに面した階段からは西側のメタセコイアの大木読書室の様子が感じられます。内部階段踊り場の奥は一段床が高くなり、外が覗ける秘密基地があります。

回遊性のある回廊：

廊下の突き当りは、外部軒下の回廊に繋がりに保育室の廻りをぐるぐると動き回れます。

食育に繋がる開いた調理室：

調理室はランチルームと広い間口で接し、調理の様子をこどもが見やすくなり、おかわりや調理士と交流できるやり取りカウンターの設置も可能、登園口からも見ることが出来るので、食育のきっかけを創ります。

ランチテラス：

ランチルームの南側に配置しオーニングで日差しを調整し季節を感じながらテラスでランチが可能となります。

こども園へのアプローチ：

人の動線と車の動線は床仕上げ等を変え明確に分離し、こども園の入口は職員室から見える場所に配置します。

職員室：

登園したこどもの視診、保護者とのやりとり、来園者の監視など、園庭の様子が分かる場所に配置します。隣接した相談室は落ち着いた相談環境を提供すると共に相談未利用時には職員の作業場や会議室になります。

こどもの五感を育むバイオフィリックデザイン

音環境：反響音を低減する仕上げ材を採用し、こどもが落ち着ける環境にすると共に外部に設置する設備の配置と防音を工夫し、近隣への騒音を低減します。
光環境：適切な採光と太陽光の入れ方を工夫し、照度や色温度を考慮した照明器具の配置と選定を行いこどもの活動に合わせた総合的な光環境計画を行います。
色彩計画：こどもへの心理的な影響を考慮した質感と色の選定を行います
温熱環境：室内の場所ごとの温度差が少なく、新鮮な空気環境を維持できるシステムを計画します。
仕上素材：触感も考慮し、自然素材や左官系の外装材を採用し、経年変化も味わいを感じる素材を提案します。
居室の天井高さ・開口：年齢や場所の目的に合わせ、天井高さ・広さ・開口部の位置と大きさを考慮した空間を創り、園児のアクティビティを高めます。

場所の記憶を継承する

道路からの目印になっていた、高さ約9mの銀杏の木と敷地北西境界側にある高さ約13mのメタセコイアの大木は地域の記憶の継承として残します。

一時預かりスペースの提案

昨今の多様な保育ニーズに対応する一時預かりスペースを提案します。ランチルームと登園口に隣接して配置することで、いろいろな利用方法が可能になります。

廊下の秘密基地：

廊下の一部を広げ、ベンチや小さな本棚を設置することで、こどもの居場所を創れます。

保育室の隣の秘密基地：

適度に囲い、床を廊下より少し上げ、天井は少し低くし、ベンチ等を設置してこどもの居場所を創ります。

方角の2方向避難：

非常時には、違う方向への避難経路が有効です。外部階段を北側に配置し、北東にある既存の階段からの避難を有効にします。北東既存階段は防犯性と安全性を高める改修を行い通常時にも利用することで、違う角度・高さから園庭を眺める場にすることができます。

遊び場テラス：

上階の回廊が屋根となる幅の広いテラスは、雨の日の遊び場にもなります。

特徴の異なる複数の園庭の提案

読書室に面し、0,1歳保育室から直接出入りができて乳児がゆっくりと遊べる「静かな園庭」、陽当たりと見晴らしの良い「屋上園庭」、メインの「大きな園庭」に隣接し、密集して木を植えハンモックなどを吊るして遊べる「林の園庭」、幾つの特徴を持たせた園庭を創り保育のバリエーションを増やすことを提案します。

耐震性と耐火性を高め安全性を高める

こどもの居場所であると共に地域の拠点にもなることから、より高い安全性を確保するために、耐震安全性は構造体：Ⅱ類、構造非構造部材：B類、建築設備：乙類とし、構造方式も耐火性が最も高い鉄筋コンクリート造を提案します。

ICTを活用して安全性を高める

園舎内、園庭での園児情報を人の目ばかりでなく、ITを活用してカメラ・各種センサーより情報を集約し、これを通信技術と併用することで、人と人とのつながりをより明確に表わすことのできるICTを活用することで共有が拡大できます。これを園児情報の共有化として用いることで、事故防止や保護者の安心安全、さらには地域との連携に活用することで、インクルーシブな西こども園を創設することに活用可能です。

施設運営のランニングコスト低減からゼロカーボンへ

CO2・コスト・技術について

2050年ゼロカーボンシティを確立するために、園舎は十分な断熱を行ない、ZEB Readyを満足する状態で新築します。太陽熱利用システムによる給湯、植栽・庇等を効果的に配置して入射熱をコントロールするなど、自然エネルギーも活用することで光熱費を軽減します。これらを行うことで低圧受電活用も可能となります。創エネルギーは太陽光発電効率の向上と設置が容易で安価なペロブスカイトの普及に合わせて将来工事を行ない、ゼロカーボンを早期に実現する事も可能となります。

安全性と可変性を高めLCCを低減して脱炭素社会を目指す

設備機器の交換・作業スペースを確保することで、日常のメンテナンスと設備更新を容易にします。将来の少子化による建物用途の変更も視野に、必要な構造体以外は改修の容易な乾式間仕切り等で造作し、将来用途へのフレキシビリティを高め、駆体を長期使用可能とする事で、ライフサイクルコスト(LCC)の低減を図ります。

駆体の長寿命化でLCCの低減を図る

より高い耐火性や海から2Km弱しか離れていない立地による耐塩害性も考慮して鉄筋コンクリート造を採用します。鉄筋被り厚を通常より厚くし、更に高強度コンクリートを採用することで、駆体自体の長寿命化を提案します。

自然のチカラを取り込む

炭素貯蔵効果の高い木材を天井・床・腰壁・下地材に採用します。仕上げとしての木材は空間を優しい雰囲気になります。深い庇はその下に心地よい中間領域を創り、通風と採光に適切な位置に配置した開口部は気持ちの良い風と光を取込みます。自然のチカラを利用して生活環境を良質にすると共にエネルギー使用量の削減を図ります。

工事コスト削減と共に廃棄物とCO2の低減を図る

コンクリート打設時の壁型枠に断熱材とボード下地が一体となった製品を採用し、工種削減、工期短縮、運搬費の低減、廃棄物の削減によりコストを削減します。スラブ型枠にフラットデッキスラブを採用し、組立て手間の軽減、支保工の簡素化及び残置期間の短縮による工期短縮、運搬費の低減によりコストを削減します。工事に使用する重機は低炭素・低燃費型を使用し、CO2を削減します。

廊下の秘密基地

保育室の隣の秘密基地

多様な保育を可能にする3～5歳保育室

将来の太陽光システム設置場所となる勾配屋根

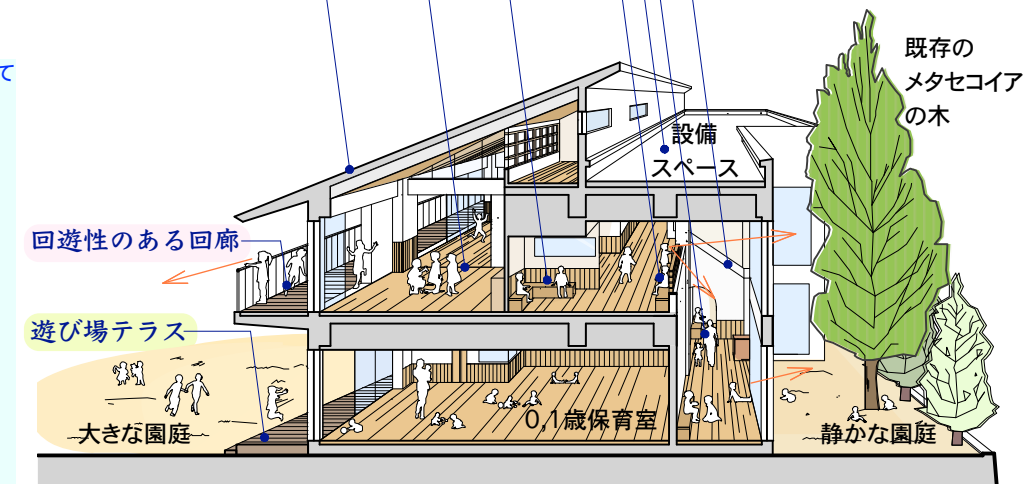
設備スペース

敷地の有効活用と安全性を考慮して屋上に設備を設置

園庭に面した読書室

階段に接し、吹抜けて繋がりに、静かな園庭に面した場

秘密基地のある階段



断面イメージ